

第86回「てくてく歩こう会」マキノメタセコイア並木ハイク



JR湖西線マキノ駅朝礼



マキノ駅からR161沿いを歩く

JR湖西線マキノ駅～マキノ町内 ～マキノピックランド(昼食)～メタセコイア並木～マキノ高原温泉入浴⇒マキノ駅(バス)(終礼)

約8.5km

参加 8 名

「新・日本の街路樹百景」選定 マキノ高原のメタセコイア並木

関西随一の規模を誇るここマキノ観光園を縦貫する町道沢牧野線とこれに続く県道小荒路牧野沢線には、延長2.4kmにわたってメタセコイア約500本が植えられ、マキノ高原、マキノスキー場へのアプローチ道として、高原らしい景観を形成している。

この並木は、1981年に学童農園「マキノ土に学ぶ里」整備事業の一環としてマキノ町果樹生産組合が植えたのははじまりであるが、組合関係者をはじめとする地域の人々の手により慈しまれ、育まれて、その後さらに県道も協調して植栽され、延長が伸ばされたことから、現在のこの雄大な姿となったものである。

メタセコイアは中国原産、ひのき科メタセコイア属の落葉高木で、和名はアケボノスギ。樹高は35mに及ぶ。最大樹高が115mにも及ぶと云われるセコイアにその姿が似ていることから、メタ(変化した)セコイアと名付けられている。

春の芽吹き・新緑、夏の深緑、秋の紅葉、冬の裸樹・雪花と四季折々に美しい円錐形のメタセコイアの並木とまっすぐに伸びる道路が造りだす対称形の整った景観は、遠景となる野坂山地の山々とも調和し、訪れる人々を魅了してくれる。

1994年11月、読売新聞社の「新・日本の街路樹百景」に選定され、衆目を集めるに至っている。

1997年3月

マキノ町



メタセコイア並木入口で

参加者(左から)岩下、中尾、、竹内、林、中川、圖子、上村、川村(敬称略)



マキノピックランドで昼食



マキノ高原に向かうメタセコイア並木



マキノ高原に向けて歩く



マキノ高原温泉到着 入浴後バスでマキノ駅に向かう。駅で終礼